

西区将来ビジョン(素案)についてのパブリックコメントに寄せられたご意見と本市の考え方一覧

番号	ご意見の該当箇所	ご意見の内容	ご意見に対する本市の考え方
1	4ページ、7ページ 区の現状	「マンションがふえたなあ」「子どもが多くなったなあ」と肌で感じていることが数字で分かり、肌感覚以上に、マンション率や若い世代の方々の比率が高いと感じました。	今後とも国勢調査などの機会をとらまえ、適宜区の状況を数値でお示しするよう努めてまいります。
2	13ページ 重点的に取り組む項目	課題解決に向け、誰もが誇りに思える西区を目標に、コミュニティづくり、まちづくり、子育てに重点をおき取り組まれるとのこと、新区長さんに期待いたします。	ご期待にお応えできるよう、区政推進に邁進してまいります。
3	19ページ 指標・方向性	アンケートをとる区民の中に、ぜひ子どもを含めてほしいです。誰もが自分らしく生き生きと暮らせるまちをめざすということであれば、西区の将来を担う子どもたちの意見が欠かせないと思うので。	区民アンケートでは、西区からの情報発信や地域活動など、幅広い内容についてのご意見をお聞かせいただき、施策実施の参考とさせていただくため、成人の方を対象とした設問を設定していますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。 区役所が行っている学校支援事業で、民間事業者を活用した課外学習支援事業において、事業終了後に受講した中学生のアンケートを取り次年度の参考としています。今後とも学校の負担も考慮しながら事業の最終受益者たる児童生徒へのアンケートも検討していきます。
4	20ページ めざす状態 取組の方向性	「子育て」という言葉の主語は、保護者だと思うのですが、大人が子育てしやすいことと、子ども自身がのびのびと暮らせていると感じているかは必ずしも一致しないので、子どもたちの視点を入れた指標や状態を追加してほしいです。 また、未就学児に対するサポート体制は10年ほど前に比べると、充実してきていると感じますが、小学生以上になると、子どもだけで安心して行ける居場所が少ないと感じます。 お金を払っていき習い事などの場所は増えていますが、子どもだけで行ける場所としては、いきいき、公園、子ども・子育てプラザ、図書館くらいで、広い西区の中で、子ども・子育てプラザが区内に1つと、子どもがこれだけ増えている西区には足りません。もっと、プラザや児童館のような役割を果たす場所を増やしてほしいです。 例えば、図書館の会議室の一室や、区民センターの空いている部屋を子どもたちのために開放するなどし、運動や宿題、読書などが自由にできる場を作るといった、さらばか広場の小学生向け版のようなイメージです。 そして、都心部で外遊びの環境として自由にのびのびと遊べるプレーパークを開設してほしいと思います。子どもが主役になれる居場所づくりが今後の西区には必要だと考えます。	今回のめざす状態につきましては、「子どもを育てる保護者が安心して育てられる状態」をめざすものであり、保護者から子どもの状況把握に努めながら進めてまいります。そのうえで、めざす状態の達成以降に子どもたちの視点による指標の数値化が可能か検討してまいります。 また、全市的に子ども・子育てプラザは区内1カ所の設置であり、引き続き現在取り組んでいる事業の充実に努めてまいります。 加えて、こども食堂など、すべての区内小学校区にこどもの居場所の開設をめざし、未開設校区におきまして運営事業者を募ってまいりたいと考えております。 さらに、中央図書館では、1階にこどもの本コーナーとティーンズコーナーを設置し、本や情報にふれる場を提供しています。図書館内の座席は調べものや読書が優先ですが、空席があれば宿題などの自習にもご利用いただけます。 プレーパーク(冒険遊び場)は、子どもたちの自主性や冒険心を育む場として、市内でも西成区の小学校跡地などで実施されるなど、子育て環境の充実を図る上で大切な取組みであると考えております。これらの取組は西区のみでは対応ができない場合もありますので、活動が想定される学校や都市公園など所管する関係部署への情報提供や対応依頼を行いながら、連携して取り組めるよう検討してまいります。 充実をはかる基準(「めざす状態」)につきましては、まずは子どもを育てる保護者が安心して育てられる状態をめざし、保護者から子どもの状況把握に努めるとともに、めざす状態の達成以降に子どもたちの視点が可能か検討してまいります。
5	20ページ、21ページ	小学生以上の子どもの居場所が少ない。放課後に行ける場所が学校の近くにあると嬉しい。プレーパークみたいな遊べる場所も少ない。	
6	20ページ	プレーパークの活動に興味を持ち、子供の遊び場としてとても興味深い活動をしていると思いました。大阪市西区という都会のまちの子供たちに、もっと自由な遊びや昔ながらの活動をしてほしいという重いからそういう活動の場をもっと増やしてほしいと思います。	
7	20～21ページ	今、プレーパークが欲しい、作りたいと思っています。4年前に東京からこちらへ引っ越してきました。西区には何でもあり、便利で魅力的なまちです。でも、1つだけ子どもたちが思いきり遊べる場所が少ないと感じました。当時1年生と3年生の子どもたちが毎日、遊ぶ場所、個人でバットを振れる(ボールも少し打ちたい)所はないか探していました。東京でよく遊んでいたプレーパークが西成にあるのを見つけ、土日に西成まで通いました。これだけ子どもたちがいるのに外で子どもが遊んでいないことに驚きました。できたらもう少しお金がなくても行ける子どもたち(小中学校を含む)の居場所が欲しいです。	
8	20ページ	自由に遊べる公園が少なすぎる。東京にはプレーパークという遊び場があり、火を使ってマシュマロを焼いたり、のこぎりを使ってブランコを作るなど普通の公園ではできないような「何かを作る」という遊びができた。西区には子どもが遊べる場所が公園以外のものがない。自由に木登りや火を使って遊びたい。 児童館なども作ってほしい。(現在の子育てプラザの場所が遠い。数が少ない。)	
9	20ページ、21ページ	子どもの遊び場の充実を入れていると感じて嬉しいが、プレーパークが西区にあるとより嬉しい。 充実をはかる基準(「めざす状態」)が「保護者」の安心感や満足感となっているが、子どもの意見も聞いてほしい。	

番号	ご意見の該当箇所	ご意見の内容	ご意見に対する本市の考え方
10	21ページ 学校教育支援	不登校の子どもたちの受け皿の充実を取り組みの中に入れていただきたいです。学校だけですべて抱えきれないと思いますので、フリースクールと連携を図ったり、家庭や学校以外の第3の居場所を拡充し、学校と連携を図る必要があると考えます。	西区役所ではスクールソーシャルワーカーをはじめとする専門職が不登校などで支援の必要な児童生徒を保健福祉の支援制度や家庭・学校以外の地域支援者につなぐ「こどもサポートネット事業」を実施しており、今後とも小中学校と連携し、その充実に努めてまいります。
11	20～23ページ	ネウボラの設置を希望。西区は近隣区に比べても産後ケアが充実している。ただ「梓」だけになっているような気がしてならない。産前産後の繊細な時期に必要なのは、しくみではなく、1人の人として尊重されることではないかと考える。区役所の対応は皆親切だけれど、心に寄り添ってくれているとは感じにくい(個人の感想)。 区役所でそれができないのなら、ネウボラのような場所で誰もが心地よく過ごせ、気軽に話せる場、集える場が必要。 つどいの広場など多数あるが、「いつでも」「だれでも」「自由に」ではないため、お母さんにとっては使いにくい部分がある。2023年2月14日に子育て応援施設まほろばで行われた「ママにいいことステーション」はボランティアの見守りもあり、お母さんのケアもあり、ホッと一息つけるとても素晴らしい会でした。このような場が常設で欲しい。	大阪市版ネウボラとして、西区では地区担当保健師の存在を周知し、保健師との顔の見える関係づくりと家族ぐるみの支援を継続的に実施する取組みを推進し、すべての子育て家族にとって安心して気軽に相談できる場をめざして取り組んでいます。 また、ママのおしゃべりひろばとして、産後すぐのお母さん同士、赤ちゃんも一緒に集まって、話をする機会も提供しています。 なお、子育て支援施設についてはコロナ禍において事前予約が必要なイベント等もありますが、いつでも誰でも自由に参加可能ですので、ご興味ある方は施設状況をご確認の上、ぜひご参加ください。 上記の取組みについて、より一層の周知に努めるとともに、充実できるよう努めてまいります。
12		この辺りはテニスコートが多いですが、もっとバスケットコート(ゴールだけでも)や、スケボーのできる広場等をもっとつくってほしいと思います。 オリンピックのメダリストも出るほど日本人の実力は低くないのだし、そういったスポーツのできる場所を作ることで、子供たちが選択できるスポーツが増えたらいいかと思います。	「第2期大阪市スポーツ振興計画」において、身近なスポーツ施設を活用した運動機会を提供するとしており、民間事業者と連携した市民サービスの向上を図っています。 また、ジュニア競技者の育成支援に取り組むとしており、市内を拠点として活動する競技団体等が実施するジュニア競技者の養成等の事業を支援しています。いただいたご意見は、本計画における取組みを推進する際の参考にさせていただきます。
13	施策展開の方向性	施策を進めていかれるうえで、できましたら縦割りでなく、横断的に進めていただけたら、より効率的に進むのではないかと思います。今、脱炭素社会・循環社会・生物多様性などがキーワードとなっていますが、50年後・100年後のより良い社会を考えるうえでも、若い世代の多い西区だからこそ、それらを重要視されてはいいかがでしょう。西区に住んでよかったと思う1つとして、環境に配慮がされ、子育て層にとっては居ながらにして環境教育ができるそんな点もポイントになると思います。例としていくつか挙げさせていただきます。 ① 公園・学校・協力してくれる所で、都市の中に里山を！ ・植樹の際は在来種を・・生物多様性 ・枯葉を集めたい肥化するボックスを・・循環・ゴミ ・枝を集めるスペース・・生物多様性 大淀の空中庭園下の新里山が参考になるかと思います。 私的には、一歩進んで家庭の生ごみでたい肥作りをし、それを区民がもちより公園や学校の植栽に活用するも加えたいと思います。 公園には、枯葉が何となく置かれているという感じであるが、たい肥化ボックスがあれば、見える化でき、ごみ減量だけでなく子ども達への環境教育の場ともなります。 環境配慮・環境教育の場となれば、周りの大人たちも公園に関心を持ち、だれかれとなく目の届く公園にもなります。 若い世代の中には環境に関心のある人、子どもに環境の事を伝えたい人はいると思います。そんな方たちのサークル活動からでも、家庭ごみのたい肥化にチャレンジしてもらってはどうかでしょう。子どもと一緒にたい肥を作り公園にもっていく・ついでに枯葉もあつめる。掃除もしようとなれば素敵です。 また、町会長として連合や町会の活動もしていますが、若い方々を見ていると、町会というと人間関係が面倒くさい・何かやらされる・関わったら何もかもせなあかん、関わりたくない、でも、地域の行事には参加する。そんな若い世代の方をゆるーく誘い、活躍できる場を作って、ニューリーダーを育てていかないと、コミュニティ形成はできないのではないのでしょうか。都市の中に里山を！は、コミュニティ作り・ゴミ減量・環境配慮・環境教育につながると思います。 ② 脱炭素にも防災にも強い自然エネルギー活用 自然エネルギーは、身近な所で小規模で作ることのできるエネルギーです。災害時、充電ステーションがたくさんあればあるほど区民は安心です。また、停電時も街燈がとともと、災害時の防犯の面からも安心です。町中で、広大な発電場所は無くても、公園や学校の街燈、道の街燈などから自然エネルギーに変えていくと安心なまちづくりにつながります。 また、太陽光パネルは、見えるので、子ども達にとっても身近に自然エネルギーの活用例があることで、「これ何？」「仕組みは？」「温暖化って？」と疑問をもち、家庭や学校・地域の大人たちが答えていくなど環境教育につながりますし、大人にとっても環境を自分事として考えるきっかけになると思います。	①について ●たい肥化について 本市では、家庭から排出されるごみの中で最も多く排出される生ごみの減量を目的として、家庭から排出される生ごみの堆肥化に向けた取組を、他都市の事例等を参考にしながら検討しています。 ●環境教育について 本市では、小学校や地域図書館等において、出前講座を実施するとともに、鶴見緑地公園内の環境活動推進施設(愛称「なにわECOスクエア」)及び自然体験観察園において、環境学習講座や人と自然との共生を学ぶ体験型学習を展開するほか、その実施等を大阪市エコボランティアと協働で行うなど、市民に身近なところでの環境学習、普及啓発に取り組んでいます。 また、市民、環境NGO/NPO、事業者、学識経験者と行政との協働のもと、地球温暖化防止活動をはじめ、環境問題の解決に向けたさまざまな活動を推進する「なにわエコ会議」の活動では、小・中学生向けの出前講座等の環境イベントを学生ボランティアとの協働のもと開催しているなど、環境教育における若い世代の活躍の場作りについても積極的に取り組んでおります。さらに、環境活動を行う各主体の取組の情報共有や連携強化を目的とした「おおさか環境ネットワーク会議」の開催を通して、全ての主体が環境問題に対する意識を高め、その解決に向けた行動を実践するようパートナーシップの形成に努めています。 この度いただきましたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきたいと考えております。 ●生物多様性について 本市では、2021年3月に大阪市生物多様性戦略を改定し、2050年の大阪市のめざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向けた取組を推進しております。 この度いただきました、「枝を集めるスペース」に関するご意見については、今後の施策の参考とさせていただきたいと考えております。 なお、本戦略に基づき立上げた、「生物多様性の保全に向けたネットワーク会議」では、多様な主体が参画できる仕組みの構築に向け、2020年度よりオンラインでの開催として実施し、これまで多くの方にご参加いただき、テーマに沿って情報交換を行い、各主体との連携を進めております。 生物多様性の保全に向けたネットワーク会議については、下記URLをご参照ください。 https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000541642.html ②について ●自然エネルギーについて 本市では、脱炭素化時代の「新たなエネルギー社会」の構築を先導していくため、令和12年度までに大阪府と一体となって実施するエネルギー関連の取組の方向性を示した「おおさかスマートエネルギープラン」を令和3年3月に策定し、大消費地・大阪における再生可能エネルギーの利用率を倍増するとともに大阪の成長につながるエネルギー効率の向上を実現することをめざして、再生可能エネルギーの普及拡大、エネルギー効率の向上、レジリエンス※と電力需給調整力の強化、エネルギー関連産業の振興とあらゆる分野の企業の持続的成長、を柱として対策を進めています。 平成30年度から実施している「屋根貸し事業」では、令和2年度にかけて、西区の日吉小学校をはじめ181校の小中学校の校舎や体育館の屋上に民間事業者が太陽光発電設備を設置し発電を行っています。各学校には、非常用コンセントを設けており、停電時には太陽光で発電した電気を地域で使っていただけるようになっています。また、校内に発電量を表示するモニターを設置し、環境学習に活用いただいています。 ※レジリエンスとは、災害などのリスクに対する抵抗力や乗り越える力、強靱さのことです。